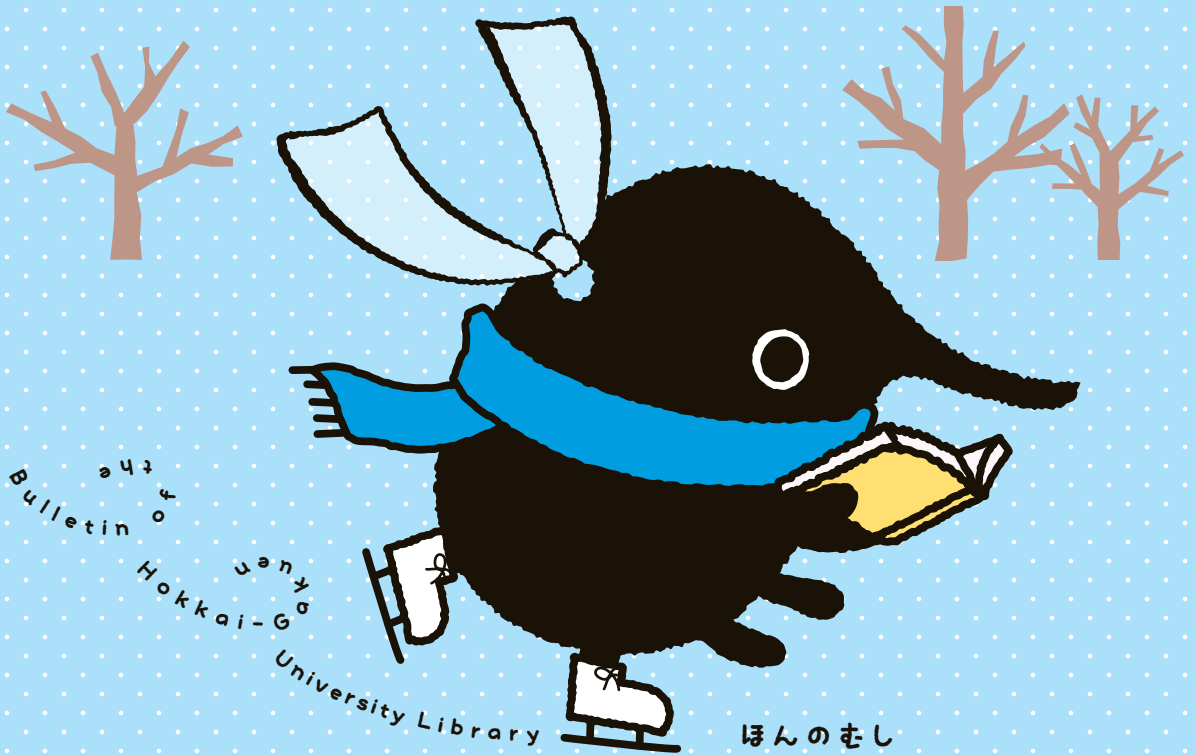


図書館だより



2

vol.40

北海学園大学附属図書館報
第40巻2号(通巻219号)
2018-12-1

特集①

拡がる知的好奇心ー「ビブリオバトル」の魅力

人文学部 教授 田中 綾

特集②

明治の美術館設立運動を 応援した浅羽靖

法学部 准教授 官田 光史

図書館OPAC(蔵書検索システム)をリニューアルしました!

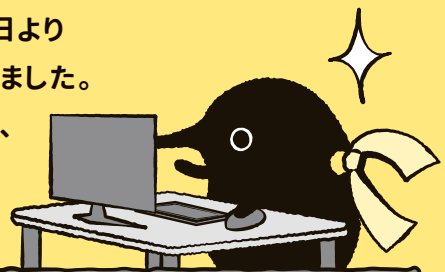
おすすめ図書
図書館職員 中井 龍

編集後記/
図書館からのお知らせ

蔵書検索システム

図書館OPACを リニューアルしました!

図書館システムの更新に伴い、2018年9月27日より
蔵書検索システム(OPAC)の画面が大幅に変わりました。
画面だけでなく、新しい機能も追加されましたので、
是非ご活用ください。



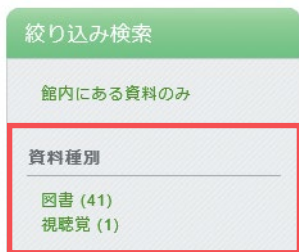
The screenshot shows the OPAC homepage with the following sections:

- Header:** 北海道大学 OPAC (Hokkai-Gakuen University Online Public Access Catalog), 日本語 | English, 図書館ホームページ
- Navigation:** OPACホーム, お知らせ, 開館時間, 利用案内
- 開館カレンダー (Calendar):** Shows a calendar for 2018 with a current date of 11. Includes a legend for 開館 (Open) and 閉館 (Closed) and an イベントアラート (Event Alert) button.
- 検索 (Search):** Search bar with buttons for 蔵書検索, 他大学検索, 論文検索, 横断検索. Includes a search button and links for 分類検索, 雑誌タイトルリスト, 新着案内, 貸出ランキング.
- お知らせ (Notice):** Latest 5 items, including notices about library hours, winter holidays, e-book availability, and OPAC/MyLibrary updates.
- 新着案内 (圖書) (New Arrivals - Books):** Lists new books such as '박정희시대 연구' and '민주주의 잔혹사'.
- 新着案内 (視聴覚) (New Arrivals - Audio/Video):** Lists new audio/video materials like 'Interface; 2001 - 2017' and '트랜ジスタ技術; 1999 - 2017'.
- MyLibrary ログイン (MyLibrary Login):** Includes a login button and a MyLibrary 메뉴 (Menu) with options like 利用状況の確認, ブックマーク, お気に入り検索, and 新規購入依頼.

OPACの ココが変わった!

Renewal 4 ファセット機能を 搭載!

検索結果件数が膨大にあり、資料を探すのが大変な場合でも、著者名や件名、出版年、所蔵館などの項目が絞り込み条件(ファセット)として提示されるので、簡単に探している資料の情報に辿り着くことができるようになりました。



Renewal 1 様々な 資料検索が可能に!

新OPACではタブを切り替えることにより、図書館所蔵資料だけではなく、他大学および国立国会図書館の所蔵資料や論文検索等も検索可能です。また、検索窓にキーワードを一度入力し検索すれば、タブを切り替えてもキーワードは引き継がれ、ワンストップで検索することが可能です。



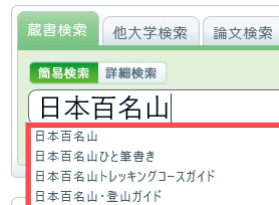
OPACの検索結果から 関連サイトへの リンクが簡単に!

Renewal 5

OPACの検索結果画面の関連情報から書店や国立国会図書館のサイトへアクセスできるようにしているので、書名を再度入力せずに書店の取り扱い状況や国立国会図書館の所蔵状況などを確認することができ、便利になりました。

Renewal 2 キーワードの サジェスト機能を搭載!

検索窓に入力した文字で始まるキーワードが自動的に表示されますので、入力の手間が軽減されました。



Renewal 6 MyLibrary メニューの充実!

これまでのMyLibraryに備わっていた貸出・予約・購入依頼の状況確認機能や貸出履歴のほかに、新たに文献複写・貸借(ILL)の状況確認機能および予約取消機能が追加されました。これにより利用状況の確認や予約取消の手間が軽減されました。

トップ画面に 新着案内や 貸出ランキングが 表示されます!

Renewal 3

新着図書や貸出回数が多い資料のタイトルや書影をOPACのトップ画面上で確認できるようになりました。

広がる知的好奇心

「ビブリオバトル」の魅力

人文学部教授 田中綾



人を通して本を知る 本を通して人を知る

「ビブリオバトル」をご存じだろうか。「ビブリオバトル」は、「人を通して本を知る 本を通して人を知る」をキャッチフレーズとしたコミュニケーション・ゲームで、二〇〇七年に京都大学の研究室から生まれたという。

「ビブリオ」はラテン語で「書物」という意味で、基本ルールは、実に簡単。まず、紹介したい本を選び、発表者(五〜六人)はその本について五分間で発表、直後に二〜三分のディスカッションをする。その後、どの本が読みたくなったかを基準に投票し、最も多く票が集まった本が「チャンプ本」となる。必要なものは、本とカウントダウン・タイマーのみという手軽さもあり、現在では、全国の大学や高校、図書館やカフェ、そして企業内などでも開催され、さまざまな本との出会いの場となっている。

「知的書評合戦ビブリオバトル」の口ゴも使用されているが、「合戦」や「バトル」という名称には、若干の抵抗を感じる人もいるだろうか。とはいえ、そこはご心配なく。勝ち負けを競うのが目的ではなく、本の紹介を通して、その「人を知る」のが一番の目的でもある。純粋に、本を通してコミュニケーション・ゲームとして愉しめるのが、ビブリオバトルの魅力と感じている。

図書館学課程で 熱心に学ぶ学生たち

さて、私にビブリオバトルを教えてくださいましたのは、読書好きな本学の学生たちだった。四年前の二〇一四年、図書館学課程で熱心に学んでいる法学部の男子学生と、人文学部の女子学生から、札幌市内のビブリオサークル「リーブル」(大学生と高校生によるサークル)を紹介してもらった。そして、「リーブル」と合同で、市内厚別区の書店「くすみ書

房」でビブリオバトルを定期開催するはこびとなったのだ。本を通して、大学生と高校生、さらに地域の人々がコミュニケーションを深め、知的好奇心を刺激されるひとときを過ごすことができた。残念ながら、そのくすみ書房が閉店になり、店主の久住邦晴氏が亡くなられたことが惜しまれてならない。

学内でビブリオバトルを

くすみ書房でのビブリオバトルを経て、学園大生有志による学内でのビブリオバトル「GUB! GUB! GUB! (Gakuen University Bibliobattle)」が、二〇一五年四月から開催された。人文学部ゼミ室を借り、学生や大学院生、本学教員、さらに高校教員も見学に訪れたことはひとときわ印象に残っている。毎回十人程度が集い、六回の開催があった。

中心メンバーが卒業したため、「GUB! GUB!」は小休止となったが、そのノウハウを受け継ぎ、二〇一五年から、人文学部の専門科目「人文学演習」(田中綾担当)で、公開授業としてビブリオバトルを開催している。公開ビブリオバトルは、当初は北海学園生協書籍部にご協力いただき、GBooksのフロアで開催したり、また、GBooks読書推進活動担当のみなさんの協力で、「チャンプ本」特別販売コーナーも作っていただいた。学部を超えて、読書の愉しみ

を拡げるためにも、ビブリオバトルは有効だと感じている。

二〇一六年には、他学部とのコラボも試みた。公開授業として、経済学部の川村雅則ゼミと人文学部の田中綾ゼミで、「人文学部生/経済学部生はこれを読め! 学部対抗ビブリオバトル」を開催。経済学部の学生の紹介する本と、人文学部の学生の紹介する本の違いなども味わえ、今後さまざまなコラボができればと願っている。

全国大学ビブリオバトル 北海道ブロック予選会の開催

ビブリオバトルの公式ウェブサイト(<http://www.bibliobattle.jp/>)で、「全国大学ビブリオバトル」(主催:活字文化推進会議 共催:ビブリオバトル普及委員会)のパナーをぜひ一度クリックしていただきたい。全国各地で、予選会、地区決戦を経て、東京や大阪で全国大会が開催されている。毎年の「記録」をクリックすると、大学生がどのような本を発表しているのかも知ることができる。

二〇一五年度から、本学も予選会場としてエントリーしており、二〇一七年度からは、学生部主催で「北海学園大学ビブリオバトル」がスタートした。第二回目にあたる今年は、十月祭開催中の十月六日に、附属図書館四階のアクティブ・エリアで開催され、一般の観戦者からも好評だったと耳にしている。



▲ビブリオバトルの様子

今年、発表者(バトラー)十人が二会場に分かれて予選を行い、投票上位となった四人が決勝に進んだ。上位四人の発表本は、三秋健『三日間の幸福』(メディアワークス文庫、小説)、土方久功『ぶたぶたくんのおかいもの』(福音館書店、絵本)、チヨヒカル『絶滅生物図誌』(雷鳥社、生物学)、工藤あゆみ『はかれないものはかる』(青幻舎、絵本)だった。そして、決勝戦でチャンプ本に選ばれたのは、イタリア語・英語・日本語の三カ国語で書かれた『はかれないものはかる』であった。従来のな価値観を、快く揺さぶってくれる絵本の世界に観戦者も魅せられていたようで、私自身も久々に絵本を手にしたくなった。

予選会後は北海道地区決戦があり、「北海道地区決戦B」は、旭川市にある三浦綾子記念文学館で十一月三日に開催された。



▲全国大学ビブリオバトル北海道地区決戦B



▲全国高等学校ビブリオバトル

一 高校生のビブリオバトルも

全国大学ビブリオバトルに続き、二〇一四年度から、「全国高等学校ビブリオバトル」(主催:活字文化推進会議)が開催されている。その北海道大会は、活字文化推進会議と、北海道高等学校文化連盟(高文連)ビブリオバトル専門部の共催で開催され、当初の三年間は北海道大学を会場としていたが、二〇一七年度は北海道大学が共催となり、後援の北海道商科大学を会場に開催された。「朝の読書」を実施している高校も増え、高校生が発表する本は、小説や地元の作家の著書、翻訳書、実用書など幅広く、関心は尽きない。

ビブリオバトルの魅力

「書評」を書く立場から

今年度(二〇一八年度)は本学が主催となり、十一月十八日に、全道十四校の高校生が集い、「全国高等学校ビブリオバトル2018北海道大会」が開催される。読書活動を通じた高大連携は、教育的効果も高く、全道の高校生に、本の図書館と読書推進活動を伝える好機にもなることが率直にありがたい。

最後になるが、私は本学の教員のほか、二つの仕事を続けている。一つは、三浦綾子記念文学館館長(二〇一七年春から)、もう一つが、「歌人」もしくは「短歌評論家」で、二十五歳から主に書評を担当している。

モノ書きの中でも、書評担当はおそらく特殊な仕事と思われるので、その仕事内容を紹介しておこう。書評担当者の仕事場には、おかげさでではなく、まさに大量の本が「降ってくる(！)」。歌集や歌書はじめ、近年は詩歌全般の著書が「謹呈」されるほか、短歌の結社誌や同人誌、学生短歌会の機関誌などが、ほぼ一日一冊ペースで送られてくる。つまり、一年に三〇〇冊くらいの本や雑誌が「降ってくる」ことになる。しかもそれらを読んで評を書くのが仕事であるため、常に締め切り日に向けて、「降ってきた」本を読み、読み、読み、評を書く、書く、書くのである。

基本的に本は「仕事(書評を書くため)として読む」ので、PCに向かい、本にふせんをべたべた貼りながら読みすすめていく。まちがっても、寝転がって読んだり、楽しみのために読書をするということはほとんどないのが実情でもある。

そんな生活のなか、ビブリオバトルのおかげで、ようやく「趣味としての読書」ができるようになった。学生が紹介する日常系ミステリーや、ファンタジー小説、あるいは恋愛譚など、熱のこもった発表を聞くたびに気に掛かり、そのまま書店に足を運ぶこともしばしばである。

ビブリオバトルの魅力の一つが、「ふだんは読まないジャンルの本と出合うことができる」ことは確かだろう。知的好奇心を刺激してやまない、そんな時間を、今後ぜひ多くの方々と共に共有していきたい。

参考図書 ※すべて本学図書館で収蔵

ビブリオバトル普及委員会
『ビブリオバトルハンドブック』2015 子どもの未来社
[本学図書館 3F/019.9/BIB]

谷口忠大(監修)・粕谷亮美(文)・しもつきみずほ(絵)
『ビブリオバトルを楽しもう ゲームで広がる読書の輪』
2014 さ・え・ら書房
[本学図書館 3F/019.9/KAS]

谷口忠大(原案・監修)・沢音千尋(マンガ)・粕谷亮美(文)
『マンガでわかるビブリオバトルに挑戦!』
学校・図書館で成功させる活用実践ガイド
2016 さ・え・ら書房
[本館図書館 3F/019.9/MAN]

明治の美術館設立運動を応援した浅羽靖

法学部 准教授 官田 光史
かんだ あきふみ



浅羽靖(号は苗邨、1854〜1914年)は、北海中学校の経営と教育に力を尽くした人物です。胸像が北海道高校の正門近くに建っています。

浅羽には役人、教育者、実業家、政治家と、いくつもの顔がありました。その多彩な活動は、中嶋健一『北海学園の父』浅羽靖(北海学園、1969年)によってうかがうことができます。

『図書館だより』をご覧の皆さんのなかには、大学附属図書館のルーツでもある北駕文庫の設立者としてご存じの方もおられるでしょう。

1911(明治44)年の北海道行啓において、嘉仁皇太子(のちの大正天皇)の訪問先には北海中学校も含まれていました。その記念として、浅羽は自身の蔵書や全国各地からの寄贈圖書をもとに北駕文庫を設け、一般の利用に供したのです。



▲浅羽苗邨先生像(筆者撮影)

このような浅羽の文化施設に対する関心は、図書館にとどまらず美術館にも及んでいました。ここでは、浅羽が応援した明治の美術館設立運動についてご紹介したいと思います。

― 帝国議会の議事録から

浅羽について私が調べはじめたきっかけは、教養科目の歴史学にあります。この講義のなかで学生たちに日本の近現代史を身近に感じてもらいたいと考え、浅羽の活動を取り上げたのです。

その準備にあたって、浅羽の関係資料(著作や書簡など)をできるだけざざり収集しました。とくに便利だったのが、国立国会図書館「帝国議会会議録検索システム」(<http://teikokuugikai.ndl.go.jp/>)です。浅羽は晩年の約10年間、札幌選挙区選出の衆議院議員でした。

議員としての浅羽は、同時代の政治家たちと同様に河川、鉄道、港湾などのインフラを整備することで地元・北海道の発展に貢献しようとしています。これらの情報は講義を組み立てるうえでとても役に立ちました。

そのとき気付いたのは、浅羽が美術

館の設立を求める建議(1910年の26議会と1911年の27議会)や請願(1909年の25議会と27議会)に関わっていることでした。建議は議会が政府に対して意見を表明するもので、請願は国民が議員の紹介を経て議会に提出するものです。国民の請願書は議会が審査し、採択されると政府に送付されます。

― 美術館設立運動

このころの日本に現代の私たちがイメージする美術館は存在しません。その設立運動の経過については、朴昭炫『戦場』としての美術館―日本の近代美術館設立運動/論争史(ブリュッケ、2012年)が詳しいです。

同書によると、1907年に上野公園で東京勸業博覧会が開かれた後、民間の美術団体は博覧会の施設であった竹之台陳列館で展覧会を開催していました。ところが、この陳列館を管理する帝室博物館が建物の修理費を工面するため、美術団体に相談することなく、他の催し物に貸与してしまいます。

これに困った岡精一ら洋画家たちは25議会に請願を提出しようとし

た。この請願では、美術品を展示する会場と、国内外の美術品を系統的に収集する美術館の設置が訴えられます。両者は同じ建物に併設されることも想定されていました。現在の美術館の多くで採られている方式といえるかもしれません。

この請願の紹介議員となったのが浅羽でした。なぜ浅羽は美術館設立運動を応援したのでしょうか。「帝国議会会議録検索システム」によって浅羽の発言を辿ってみましょう。

◀25議会の請願文書表

(岡らの請願の紹介議員欄に浅羽の氏名が記載、国立国会図書館所蔵)

議員名	紹介議員	議員名	議員名
岡 精一	浅 羽	靖 君	外三十四名
外三十四名			

― なぜ美術館か

25議会において、まず浅羽は美術館設立の請願が1890年の帝国議会開設以来、初めてであることを確認します。浅羽自身は美術家でも美術団体の会員でもありません。しかし長年苦勞している美術家たちを放っておかず、紹介者を買って出たのです。

浅羽は美術団体が竹之台陳列館を使

用できなくなったことに同情する一方で、同館で展覧会が開催されていたことを問題視しています。というのも、この展覧会のすぐ側では商品の販売が行われ、家畜の品評会も開かれていたのです。落ち着いて作品を鑑賞するには不向きな環境だったようです。

もっとも、浅羽は単に義侠心から紹介議員となったわけではありません。こうした行動を浅羽にとらせたのは、政治家としての見識でした。

日本には自国の作品を歴史的に分類し、世界各国の作品を収集する美術館がない。そのため、美術家たちが美術品を自身の技能の向上や美術工芸の発達に役立てることができない。これが日本の現状である。したがって、美術教育を盛んにするために、専門的な美術館がどうしても必要である。

このように浅羽は、美術家が他の作品を参照することで日本の美術全体がレベルアップすることを主張しています。その空間として美術館は構想されていたのです。

さらに印象的なのが、浅羽の「美術そのものは一國の贅沢を奨励するものにあらず」という言葉です。その意図は美術が進歩すれば美術工芸品が発達する、そうすれば海外輸出の促進につながるというところにありました。政治家としての浅羽のなかで、美術館設立は貿易

振興政策の基底に位置づけられていたのです。ここに浅羽が美術館設立運動を応援した理由は求められます。

「明治50年」万博と美術館

しかし、美術館は簡単には設立されません。26議会の建議案に対して、政府は財政的に厳しいという見解を述べています。このことを反映してか、26議会以降の建議や請願の名称には美術展覽会場の設立のみが挙げられるようになりました。とはいえ、その説明では美術館の設立にも言及されています。

27議会になると岡たちが再び請願を提出したのに呼応して、浅羽たちも建議案を作成しています。その本文では、美術展覽会場を設ければ明治50年の大博覧会にも資するという新たな論理が用いられました。明治50年にあたる今年は、各地でさまざまなイベントが行われています。同様に当時も1917年に明治50年を迎えることから、万国博覧会（万博）の開催が見込まれていたのです。

建議案の説明において、浅羽は万博の開催に触れ、日本の名誉を気にしています。来日観光客の目に日本の美術施設がどのように映るかに心配だったのでしょう。その思いは文部省によっても共有されていました。岡田良平次官は、当局としても財政が許せばなるべく早く計画を立てたいと応じていま

す。このように浅羽たちは、万博の開催という旗を掲げることで、文部省から前向きな答弁を引き出すことに成功したのです。

もっとも、ご存じのとおり1912年に元号は明治から大正に改められます。明治50年の万博は幻となったわけです。結局、浅羽の存命中に美術館の設立は具体化しませんでした。その後、この運動は紆余曲折を経ますが、北九州の実業家・佐藤慶太郎の寄付を受けて東京府美術館（現在の東京都美術館）の開館に至ります。1926（大正15）年、浅羽が亡くなってから10年近く後のことです。



▲東京府美術館（絵葉書、東京都立中央図書館所蔵）

「見る」ということ

美術館設立運動の応援にあたって、浅羽は美術家が他の作品を参照することを重視していました。このような人が文物（を見る）ということに対するこだわりは、浅羽の多彩な活動のなかに共通しているように思われます。これが当てはまるのは、北鷹文庫の設立だけではありません。

例えば1911年の北海道行啓では、北海道命名関係の資料など、松浦武四郎ゆかりの書物の台覧を自らの企画によって実現しています（『北海タイムス』同年9月21日付）。また、1902年には名所旧跡をめぐる北海道旅行倶楽部を作り、会員の心身を鍛えようとした（『北海道旅行倶楽部規則』）。

このように辿ってくると、浅羽は（見る）という行為のなかに個人や社会が成長する契機があることを見抜いていた人物だったといえるでしょう。だからこそ、美術館設立と貿易振興政策を結びつける発想も可能だったと思われまます。

北海道の新聞には、東京の美術館で開催される展覧会の広告がよく掲載されているように感じます。道内外の展覧会を楽しんでいる美術ファンの方が多いということなのでしょう。皆さんも東京都美術館に足を運ばれることがあれば、浅羽の奮闘に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



おすすめ図書

R e c o m m e n d e d B o o k s

本社は田舎に限る

吉田基晴著(講談社・2018)

本館開架3F
文庫・新書
資料ID: 0982598

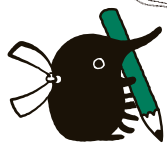
図書館職員
なかいりょう
中井龍

本書は「働き方も生活の仕方も自由に欲張りしたいし、地域振興もしたい」という理想を具現化したあるIT企業と徳島のある町の取り組みについて書かれています。

東京のITベンチャー企業「サイファー・テック」社は長期にわたり赤字経営が続いていましたが、デジタルデータ保護に関わる業務依頼が多数舞い込むようになり、業績が回復していきまし。しかし、会社の規模も小さく、認知度も低いことから、人が集まらず、次第に社員の業務負担が増え、人間関係がギスギスしていました。そんな中、社長の吉田基晴さんはある大胆なアイデアを思いつき、実行に移しました。それは徳島県美波町へのオフィス移転でした。「昼休みにサーフィンができる会社」、「半IT半○○」(○○には自分の趣味を)などを謳い文句に「暮らし」と「仕事」をミックスしたライフスタイルが送れることをPRすると、大都市圏の若者から応募殺到。一挙に人材問題は解決したのですが、いざ、オフィスを徳島の美波町へ移転してみると、「高齢化」「人口減少」「若者の都市圏への流出」「基幹産業の衰退」「買物難民」などの過疎地域特有の課題が見えてきました。前述の吉田さんと社員はIT企業ならではの方法でその課題を解決していきます。それがきっかけで彼らは地元住民の信頼を集め、感謝され、それまでぼんやりとしていた存在価値や役割が明確になり、充足感も感じるようになっていきます。現在は「サイファー・テック」社他15社が美波町へサテライトオフィスを設立し、各社が持つ技術やノウハウを用いて、地域振興に携わっています。

「働き方も生活の仕方も自由に欲張りしたい。社会貢献もしたい。でもそんな会社って存在するのかなあ」と思う方は必見の1冊です。

編集後記



今年も残りわずかとなりましたね。これから忘年会やクリスマスなどで街へ出かける機会が増えるかと思。体調管理には十分気をつけて、楽しくお過ごしください。また、ご多忙にもかかわらず、図書館だよりの原稿執筆にご協力いただきました教員の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。それでは皆さま、よいお年をお迎えください。

図書館からのお知らせ

冬季休業期間の長期貸出

期間：平成30年12月10日(月)～12月26日(水)
長期貸出返却日：平成31年1月11日(金)

春季休業期間の長期貸出

期間：平成31年1月22日(火)～3月28日(木)
長期貸出返却期限日：
卒業生・修了生……………3月20日(水)
OB・科目等履修生・研究生…3月29日(金)
一般学生……………4月12日(金)

日曜特別開館(豊平校舎図書館のみ)

平成31年1月27日、2月3日 10:00～16:00

日曜・祝日以外の休館日

冬季休業：平成30年12月27日(木)
～平成31年1月8日(火)

センター試験：平成31年1月19日(土)
入学試験準備：平成31年2月8日(金)
入学試験：平成31年2月9日(土)～2月12日(火)
蔵書点検：平成31年2月20日(水)～2月22日(金)

開館時間変更

センター試験準備日に伴う開館時間短縮：
平成31年1月18日(金)
9:00～17:00(図書館1階～3階、工学部図書室)
10:00～16:30(図書館4階アクティブ・エリア)

皆さまからの、本冊子に対するご感想を下記のアドレス宛にお寄せください。今後の内容充実のために活用させていただきます。なお、お寄せいただいたご意見・ご感想についての回答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

▶▶▶ lib@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp